

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙「みらい」
NO. 4351
23年5月26日(金)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

郵政ユニオン長崎結成33年を祝し 全国と共にたたかい続ける決意！



おはようございます。

郵政ユニオン長崎は明日の五月二十七日に結成三三周年の記念日を迎えます。おめでとうございませす。祝、郵政ユニオン。

当時の郵崎労（現、郵政ユニオン長崎）の独立の背景は、労働界の再編で総評が解体され、ストなし・協調派の連合に統合されることに反対したからです。

理由の一つは、当時の国鉄分割民営化・二十万人の解雇攻撃（国労解体）を許さず、最後まで国鉄労働者と共にたたかう。

二つには郵政の反マル生闘争での不当解雇・四・二八処分反対闘争Ⅱ解雇者の切り捨てを強行する全通に反対したからです。

三つには全国のナショナルセンター再編で反連合の全労協を選択したからです。
四つには国や郵政とたたかい、「人らしく生き

る」という労働運動の原点の心からでした。

以来、三三年が経ち、組織的には第二世代へと移りましたが、いまだその目標は達成されていません。

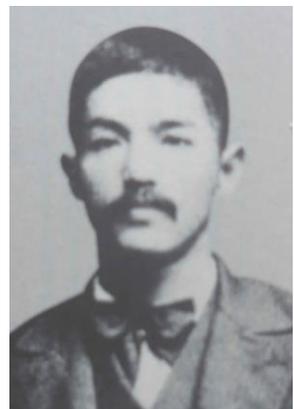
それどころか、働く人の実質賃金は上がらず、所得の格差が拡大し、職場の権利も奪われていきます。これはだれの責任でもなく、私たちもふくめた日本労働者全体の運動の責任なのです。

ではどうしらいいのでしょうか。現実の結果が、たたかいない運動である以上、時代と情勢を変えるには、それぞれがたたかうしかありません。自分の生きる権利は自分でたたかいたいとる以外、道はないからです。

その意味で今回は労働組合の第一歩となった歴史的な檄文を学び、たたかう決意をこめるために、小文を掲載します。

一八九七（明治三〇）年、日本で最初に労働組合（労働組合期成会Ⅱ七一名）ができ、つづき全

国・四三支部の五四〇〇人が参加します。



これを主導した一人が高野房太郎（長崎市銀屋町出身）でした。高野は単身渡米し、アメリカで労働運動を学び、帰国し活動しています。

高野は期成会の結成宣言文で「職工諸君に寄す」の一文を發し、全国の労働者を激励しました。

以下です。
立て職工諸君！
立つて労働組合を組織し、その重大な責務で面目を保てよ。諸君の前途は有望なり。要するところは不拔の精神と、不屈の意思のみ。天は自らを助ける人を助くといわずや。奮えよや諸君。その自助心を發揮せよ。
……その自助心を發揮するとは、わが労働者の



花しょうぶ

仲間のみなさん、ともに最後までたたかきましょう。
郵政ユニオン長崎、結成三三年、おめでとう。

※、写真は高野房太郎。長崎市銀屋町の生まれで、磨屋小学校に通っていました。みなさまの祖父や曾祖父に知り合いがいるかもね。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員希望者全員が正社員化を。めげず、均等待遇。なぐさし差別！ ユニオンは労契法裁判に勝利するぞ！

